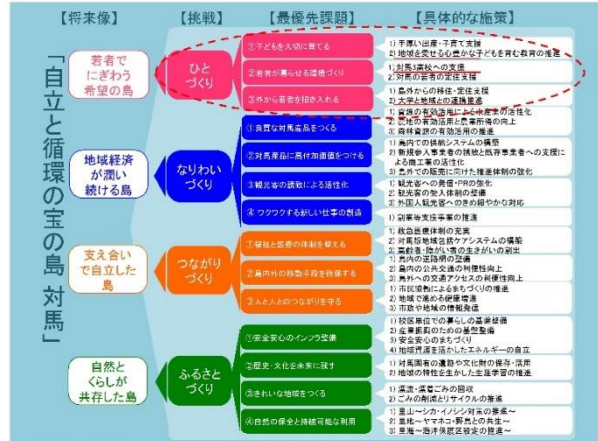


# ○長崎県対馬市

しまづくり推進部 しまの力創生課 係長 前田剛

## 対馬市について

- 面積: 708km<sup>2</sup> ニンギンガポール  
→面積の9割が山地・「山の島」  
→対馬島、100以上の小島、6の有人島から成る
- 人口: 31,067人 (H30.10月末現在)
- 集落数: 125 (半数は200名未満の小集落)
- 主産業: 漁業、土木建築業、サービス業
- 韓国からの観光客数: 35万人 (H29年)
- 1島6町から1島1市 (H16年3月合併)
- 予算規模: 317億8,300万円 (H30年度一般会計)



## 「なぜ人は出て行き、帰ってこないか」-地域創生の根本課題



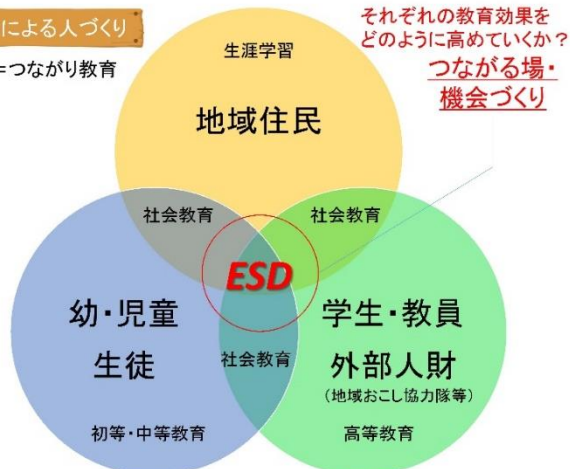
## 人づくりの現状

山積する課題にどのように、誰が立ち向かうのか・・・



## ESDによる人づくり

ESD=つながり教育



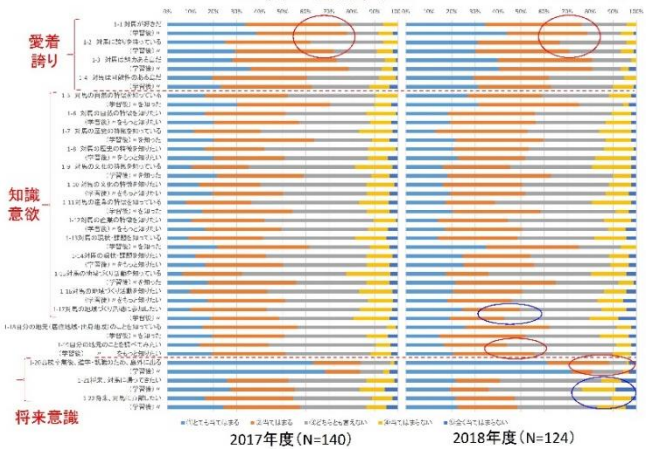


## 学習概要

区分	2017年度	2018年度
対象	2年次 普通科163名	1年次～2年次 普通科114名
授業数	12限	20限
内容	<p>①外部講師によるリレー講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対馬の魅力の感じ方、捉え方(前田)</li> <li>対馬の自然(市文化交流・自然共生課 神宮周作主任)</li> <li>対馬の歴史文化(市 大澤信・高田あゆみ ミュージアム・プロモーター)</li> <li>インタビューのプロに学ぶ(長崎新聞対馬支局 緒方秀一朗記者)</li> </ul> <p>②グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「高知の方々の人生史をインタビュー」(対馬に生きている)</li> <li>事前の下調べ・質問づくり、事後のまとめ</li> <li>新聞記事の編集・作成・発表(桐風祭・対馬学フォーラム等)</li> </ul>	<p>①外部講師によるリレー講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どうなる対馬の未来？(前田)</li> <li>対馬の歴史・文化(市 大澤信・ミュージアム・プロモーター)</li> <li>対馬の医療・福祉について(市 桑原直行医療統括官)</li> <li>対馬の産業・創業について(フラットアロー 越本誠代表)</li> <li>対馬の現状について(県対馬振興局 中嶋護司局長)</li> <li>取材講座(長崎新聞対馬支局 緒方秀一朗記者)</li> </ul> <p>②バス巡検</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡検前講義(一社) 対馬里山経営塾 川口幹子代表)</li> <li>バス巡検(中対馬、下対馬地区)</li> </ul> <p>③グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題の絞り込み</li> <li>事前の下調べ・質問づくり</li> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>新聞記事の編集・作成・発表(桐風祭・対馬学フォーラム)</li> </ul>

## 生徒の意識変化

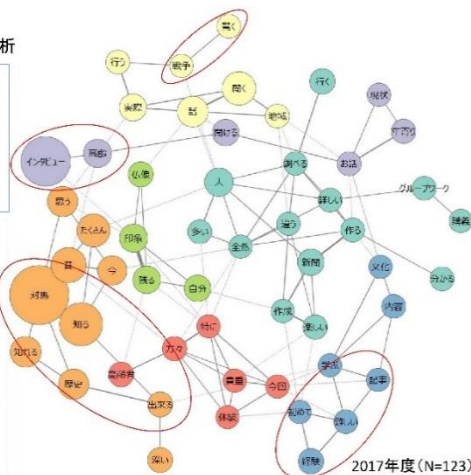
※島外からの離島留学生を除く



## 生徒の印象・感想 共起ネットワーク分析

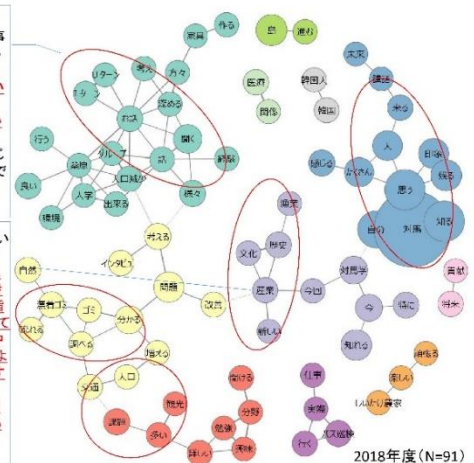
ご高齢の方々に対馬の歴史について聞く機会がないので、このような機会が対馬の歴史を知ることが出来てより一層対馬が好きになり、もっと深く対馬の歴史について知りたくなった。

高齢者の方から直接昔の対馬について話を聞くことができる貴重な体験となった。特に海女についてインタビューしたが、現在の対馬の海が昔よりも汚れてしまっている事に衝撃を受けた。僕たちの世代はこれからの対馬についても深く考えるべきだと思った。



対馬には自分が思った以上にいろいろなお仕事をされている人たちがいて、島内だけでなく島外からも対馬にいられたことがとても印象に残った。自分が思っている以上に対馬はすごい可能性のある島だと感じた。林業や漁業が盛んであり、たくさん人の歴史があることを学んだ。

インタビューに行ったとき、おじいさんがおっしゃっていた「地球にふりかけられたときに残るような産業を目指している」という言葉がとても印象に残った。世界中の人たちがおじいさんのような考え方をとらなければならぬ。世界でただで温床化や資源の問題もすこしは改善されるのではないかと考えた。



## 考察

### ●魅力ある仕事づくりが必要

小中学校の郷土学習を経て、地元高校生の郷土愛(88.5%)やUターン意識(64.6%)は高めているが、対馬に魅力的な仕事があるという認識は低く(45.3%)、大学や専門学校卒業後のUターン意識は20%程度に留まる。保護者の意識はUターン意識を強く規定し、若者にとっても保護者にとっても、また、対馬の人の持続性を高めるにも魅力的な仕事の創出が重要。

(東京大学大学院教育学研究科 眞岩哲史氏との共同研究に基づく)

## 「持続可能な人づくり」

